

(別添 3)

【東海村】 校務DX計画

【現状】

東海村では、令和2年度からの校務支援システム導入などにより業務の改善が顕著に表れ、一定の成果は出てきている。また、令和6年度中に公印の押印廃止とFAXの利用は原則不可とする業務見直しを実施したところであり、実際の運用上も押印とFAXは廃止できている。一方で、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、保護者と学校のやり取りに関するサービスの複雑化、校務支援システムのクラウドツールの活用など、校務の効率化や完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

- ・保護者と学校とのやり取りでは、2つのサービスを利用している。並行利用により学校間での情報伝達手段が統一されず、混乱が生じている。
- ・保健に関する帳票は校務支援システムに実装されておらず、他のシステムから出力している。校務支援システムとの連動ができず、教職員が二重に情報を入力する手間が生じている。
- ・クラウド環境の整備については、セキュリティ面の懸念が大きく、検討があまり進んでいない。

【取組方針】

現状と課題から、東海村では、次の通り校務DXの推進を図る。

- ・保護者と学校とのやり取りについては、令和7年4月から利用サービスを一本化することから、円滑な情報伝達となるよう運用方法の検討を進める。
- ・校務支援システムにおける保健に関する帳票に関しては、令和7年4月に校務支援システムの切替えにあわせて実装する。
- ・クラウド環境の整備に関しては、先進自治体や業者からの情報収集を通して、現環境下においてこういった取組が可能なのかを慎重に検討する。特に、現状では校務用端末を職員室外に持ち出す想定をしていないため、単純にクラウド環境を整備しただけでは持ち出した際の情報漏洩のリスクを排除できない。ハード面とソフト面両面で、リスクなく持ち出せる対策を検討する。